



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第1巻第  
3号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第1巻第3号). 泌尿器科紀要 1955, 1(3): 218-218

ISSUE DATE:

1955-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111062>

RIGHT:

## 編集後記

第 2 号の発行が予定期日より遅れた事はまことに申し訳ない。その代りに第 3 号を急いで、出来れば 8 月中にもお手許に届けたいと思つている。



掲載希望の原稿を諸方から送つて頂き喜ばしい次第である。なるべく早く掲載したいが頁数に制限があるので残念乍ら次号に廻すことになる。それで従来季刊を止めて、第 2 巻からは年 6 回発行に改めることになるかも知れない。就ては会員の入会を御勧誘下さる様お願いする。



第 48 回近畿泌尿科集談会は去る 5 月 22 日高槻市の大阪医科大学に於て栗原教授司会の下に盛会裡に行われたが、昭和 31 年度には大阪大学、又 32 年度には関西医科大学(旧大阪女子大)の当番にて行われる予定である。



医師国家試験の口頭及び筆答試験の委員を担当して感じた事を少しばかり記すと、先ず口頭試験に就ては一般によい成績である。特に知識として頭の中にはよくはいつていて、系統的に明快に答える事が出来る様である。然し実地的な事柄、例えば顕微鏡標本、X 線写真等を説明する事は不得手な人がある。之はやはり書物やノートでは勉強するが、実地修練の不足する事があるのではないかと思われる。インターンを受けた病院の内申書が良くても、試問によつて容易に看破出来る。内申書はむしろ辛い方がよい様に思える。又修練は学ぶ方は勿論であるが教える方も熱心でなければならぬ事を、実際に試験を行つてみてつくづく感じた。

筆答試験の答案調べは調査数が多いので及第点に達しない者もかなりある。このままで医者になつて貰つては困る様な答案もあるわけである(編集子)。

### 購読要項

1. 発行は当分の間季刊(年 4 回)とする。
2. 会員は年間料金 400 円を前納する。一冊料金 100 円。但し第 1 巻は 3 冊分として 300 円を前納する。払込は振替口座番号 京都 4772 番 泌尿器科紀要編集部。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

### 投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、寄稿者は本会々員に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400 字詰原稿用紙を用いること。
4. 300 語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用うること。
5. 掲載料は毎頁 500 円、図表、写真は実費を申受ける。別冊 20 部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
6. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
7. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院泌尿器科紀要編集部。